かけはし

発行：日本共産党橋本市委員会
住所：橋本市御幸辻１６７－１
電話：３２－９２４３

第５９回日本母親大会in東京に参加して

富岡　嬉子

記録的な猛暑の中、東京に行ってきました。――― 先週の「渡されたバトン……さよなら原発」上映を４００余名の方々に観て頂き、ホッとしたのも束の間 ―――

「生命を生みだす母親は、生命を育て、生命を守ることを望みます」このスローガンを、今まで何回、口吟み、叫んだことでしょう。

一日目は全体会、全国から７、５００人が参加し、「女性は憲法を守ります」と幕張メッセージでエール交換。

二日目、東京都内の各所で３５の分科会が開かれ、子ども・教育のもんだい、くらしのもんだい、権利のもんだい、女性の地位向上・男女平等めざして、平和と民主主義などのテーマに分かれて交流。特別企画が６つ設けられ、見学分科会も５つありました。

今回、私は日比谷公会堂で行われた、東京大学大学院の小森陽一さん、詩人のアーサー・ビナードさん、詩人の小坂涼さんによる「ビックてい談」（いのち・平和・ことば）、に参加しました。

無料法律相談
日時　９月６日（金）　午後３時～８時
場所　橋本市民会館2F　予約が必要です。
富岡清彦 33-0796・阪本久代 36-1493
古倉伸二 32-6406

進行役の小森さんは、最初に自民党が昨年出した憲法改正草案を取り上げ、第21条の表現の自由を保障するの項目で、どう変えようとしているのか注意喚気。改憲案が、ときの権力が集会を禁止したり、出版物の検閲など先頃、中沢啓治作「はだしのゲン」の漫画をめぐる閲覧の事態を軽視しないようにと発言。

てい談とは、三人で向かい合って話すこと。アーサー・ビナードさんは、詩人でアメリカ人ですが、ユーモラスで　権力者やメディアが発する「ことば」を“見抜くレンズ”を持たないといけない、と。大量に流されるマスメディアの中での自分の位置づけ、回りの人と違和感を感じる時、どうやって伝えるか、ことばを選ばないといけない。

興味深かったのは、「汚染水」。三字熟語の「自然水」「深層水」と同じ水に問題をずらしていること。ことの本質は「水」が問題でなく、東京電力福島第１原発事故によってプルトニウムはじめ放射能物質が原子炉の外に大量にもれていると述べました。

電力会社やメディアが最近伝える「原発再開ということばも要注意。「再稼働」ということばが使えなくなり、肯定的な「運転再開」と言い換えてきてます。

木坂涼さんは、戦争「勃発」ということばにひそむ権力側のウソとペテンの話になりました。戦争は、突然起こる（勃発）のはウソで、「戦争はおこるものではなく、つくられるもの」と結ばれました。

参加記念に、アーサー・ビナード作「さがしています」の写真絵本を購入してきました。　２日間のべ１２、７００人が参加しました。

２０１３・８・２４～２５